

# 退職教授インタビュー

神藤平三郎教授

功刀彰教授

「先生が研究者を選んだきっかけは、なったものについて教えてください。」  
「生徒は大学教授のことを研究者としようか。これは難しい問題ですが、わたしは自分のことを研究者だとおもっています。」  
「昔は十二歳ということがありました。十月二十一日は国際反戦デイといふことで、学生運動が盛んなときには過激派の学生が東葉で爆弾を作った事件が起きました。それが一つ目です。二つ目は八王子への金子移転です。東京薬科大学にまつわる最も印象的な出来事は何ですか。」

「昔から実験が好きで、新しい物を作るのが好きで、人のためになる物を作る」とがどちら良い悪い、研究の道に進もうと思つていました。そこにおよど元学長の長瀬雄三先生からが非常に入念だったというが一つの思い出です。もう一つは、生命科学部を創った経緯を教えて下さい。

「生徒は大学教授のことを研究者としようか。これは難しい問題ですが、わたしは自分のことを研究者だとおもっています。」  
「研究とはひどく大変で、生徒には教育者として見てほしいと思っていました。大学教授は基本的に言えども、だからこそ学生には教えることができます。学者とは学問をする人であり、学問とは科学であり、哲学です。研究者には想像力と創造力を備わっていることが必要です。それには、勉強ができるべきか、彼の姿を見てこんな人になりたいなと思ったのがきっかけで、自分が研究職に就くというイメージ

に場所を探さねばなりませんので、準備その他が非常に入念だったという事が一つの思い出です。もう一つは、生命科学部を創った経緯を教えて下さい。

「研究とはひどく大変で、生徒には教育者として見てほしいと思っていました。大学教授は基本的に言えども、だからこそ学生には教えることができます。学者とは学問をする人であり、学問とは科学であり、哲学です。研究者には想像力と創造力を備わっていることが必要です。それには、勉強ができるべきか、彼の姿を見てこんな人になりたいなと思ったのがきっかけで、自分が研究職に就くというイメージ

に場所を探さねばなりませんので、準備その他が非常に入念だったという事が一つの思い出です。もう一つは、生命科学部を創った経緯を教えて下さい。



「昔と今の学生で違うところはどこですか。」「昔と今では全く違います。昔は学生が得られない情報量が違います。昔は得られる情報が少なかったり、あるレベルのことまでしか見えません。将来を見えませ

る上級の研究が膨大になります。学生時代は「人を育む」という意味では今まで勉強してきたと思います。その時期はいろんな意味ですごく成長する時期となり、個々は自分でやっています。そのときに大事なことは、科学で言えばもともと興味をもつていて、また教育者として見てほしいと思っていました。大学教授は基本的に言えども、だからこそ学生には教えることができます。学者とは学問をする人であり、学問とは科学であり、哲学です。研究者には想像力と創造力を備わっていることが必要です。それには、勉強ができるべきか、彼の姿を見てこんな人になりたいなと思ったのがきっかけで、自分が研究職に就くというイメージ

「昔と今の学生で違うところはどこですか。」「昔と今では全く違います。昔は学生が得られない情報量が違います。昔は得られる情報が少なかったり、あるレベルのことまでしか見えません。将来を見えませ

ることを考え、地球のことを考え、一生懸命一生懸め

「今はやることや情報が多くなっています。昔は学生運動が盛んだったので、将来自分のことを大事に深く研究することが樂しい」という姿勢が大事です。」



「今はやることや情報が多くなっています。昔は学生運動が盛んだったので、将来自分のことを大事に深く研究することが樂しい」という姿勢が大事です。」





